

トヨタモビリティ基金の助成事業に採択されました！



天草の離島を「海の道」で繋ぐ、モビリティ・シェアリング

【事業コンセプト】

九州の西南、不知火海に浮かぶ離島、天草市御所浦地域の移動の課題を、先進モビリティと情報技術により解決し、地域活性化と交流人口の拡大につなげます。



■ トヨタモビリティ基金の助成事業について

トヨタ・モビリティ基金は、トヨタがクルマづくりで培った技術的知見やノウハウをもとに、豊かなモビリティ社会の実現とモビリティ格差の解消に貢献することを目的として、2014年8月に設立された一般財団法人です。

この度、当団体が公募した「『地域にあった移動の仕組みづくり』に取り組む地方公共団体やNPO等を支援するプログラム」に、本テーマが採択されました。

詳細は裏面をご覧ください！

01 「移動支援」の勉強会 (熊本市ささえりあさん)

去る4月16日(火)、熊本市中央区の各地域包括支援センター(「ささえりあ」さん)による「移動支援」の勉強会が開催され、代表の鶴岡がお話しをさせていただきました。

熊本市では、既にいくつかの地域で始まっている住民主体の移動支援に対して、総合事業(介護予防・日常生活支援総合事業)を活用した支援策もスタートし、イーモビネットとしても今後種々の支援を行ってまいります。



4月16日(火) 勉強会風景
(熊本市ささえりあ水前寺さん)

02 ボランティアドライバー 講習会(ふくし生協さん)

去る3月24日(日)、ボランティアドライバーさん向けの講習会が熊本市東区のふくし生協さんで開催され、協力団体として参加しました。

高齢者の免許返納などで急速に社会問題となりつつある「移動難民」を地域で支えていくために立ち上げられた市内の3団体が、半日の講習と実技を終えられ、熊本市では記念すべき、「第一期卒業生」となりました。「どこいこカーましき」モデルが、ここ熊本市でも動き出しました。



3月25日(日) 講習会風景
(熊本市ふくし生協さん)

03 「おでかけ支援」ワーク ショップ開催(益城町)

当団体が益城町の地域団体と連携した取り組みの一環として、「高齢者おでかけ支援」ワークショップを開催しています。

今年2回目となる4月22日(月)は、津森地区にお住いの住民代表にも参加頂き、地域が抱える課題などについてディスカッションを行いました。

これらの「地域診断」も踏まえて、高齢者の日常生活支援活動と移動支援を組み合わせた新たな取り組みを、今年上期より進めていく予定です。



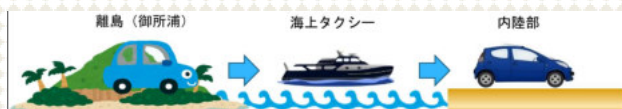
4月22日(月) おでかけ支援
ワークショップ(益城町役場)

トヨタモビリティ基金 支援事業

『天草の離島を「海の道」で繋ぐ、モビリティ・シェアリング』について

■ どのような事業ですか？

天草市の離島である御所浦と九州内陸部を結ぶ「海上タクシー」の相乗りサービスや、対岸港での「カーシェアリング」などの組み合わせにより、島民や観光客などの移動（モビリティ）の自由度と利便性を高める事で、観光振興を含めた地域活性化をはかるプロジェクトです。



■ 事業主体は？

イーモビネットを事業主体として、御所浦地域の観光、交通、商工関係団体などが連携した「御所浦スマートモビリティ推進協議会（仮称）」を推進母体とし、地域一体となった活動を展開していきます。

■ 事業の財源は？

一般財団法人トヨタモビリティ基金が公募した「地域にあった移動の仕組みづくり助成事業」により、2019年度から2か年、立ち上げや初期運営資金の支援を受けることとなりますが、本プロジェクトは持続可能な事業として継続する仕組みづくりを前提としてスタートいたします。

■ 海上タクシーについて



御所浦の各島と対岸である天草市、上天草市、宇城市、水俣市などの各港を結ぶ定期航路を補完するため、地域の事業者が運行する小型船舶（定員は12名程度）です。



（参考）御所浦と内陸部を結ぶ主な定期航路

「高齢者おでかけ支援連絡協議会」を開催しました
～ ルーテル学院大学 市川学長をお招きして ～

イーモビネットは、昨年10月より（公財）日本生命財団さまから2か年の支援を受け、熊本県や益城町などと連携した「移動支援を柱とした住民主体による地域包括支援のモデル事業」をスタートさせています。



3月18日（月）第二回益城町高齢者おでかけ支援連絡協議会（益城町役場にて）

去る3月18日（月）、本事業のアドバイザーであられる、ルーテル学院大学の市川一宏学長並びに、日本生命財団の熊谷修一理事をお招きし、「益城町高齢者おでかけ支援連絡協議会（第二回）」を益城町役場にて開催しました。

会議では町のご担当より、熊本地震後の高齢者を取り巻く状況について報告がなされた後、当協議会の幹事団体である当団体代表の鶴岡より、この半年間の取り組み状況と課題などが報告され、今後の活動内容について議論がなされました。



会議後に益城町津森仮設団地を訪問
（右）日本生命財団 熊谷部長
（中央）ルーテル学院大学 市川学長
（左）イーモビネット 鶴岡代表